

製品安全データシート

HAMBER

作成 : 2023/1/31
改訂 :

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 HAMBER
 会社名 Eternis Fine Chemicals Ltd.
 住所 1004, Peninsula Towers, 10 th Floor, Peninsula Corporate Park, G.K. Marg, Lower Parel, Mumbai-400013, India

担当部署
 担当者 [Salomi Samuel](#)
 電話番号 +91-22-66513400
 FAX番号
 メールアドレス sales@eternis.com
regulatory@eternis.com

緊急連絡先番号 0120 015 230 (toll-free, access from Japan only)

販売代理店 サンケミカル株式会社
 住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
 電話番号 03-3661-6681
 FAX 03-3661-7055
 メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
 HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意
 香料原料

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類
 物理化学的危険性:

健康に対する有害性:

皮膚腐食性・刺激性	区分2	H315
皮膚感作性	区分1B	H317

環境に対する有害性:

水生環境有害性 短期(急性)	区分2	H401
水生環境有害性 長期(慢性)	区分2	H401
オゾン層の有害性		

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル



● 注意喚起語

警告

● 危険有害性情報

H315	皮膚に刺激を引き起こす
H317	皮膚にアレルギー反応をひきおそれがある
H401	水生環境に毒性がある
H410	水生環境に長期に毒性がある

● 注意書き

【安全対策】

P261	水に触れると可燃性ガスを発生
P264	取扱い後は手をよく洗うこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと
P332+313	吸入すると有害、皮膚に接触すると有害のおそれ
P501	内容物/容器を法令、条例に廃棄すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

工業純品

1-(2,3,8,8-テトラメチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロ
ナフタレン-2-イル)エタン-1-オン

慣用名・別名

アンペロン

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS番号

54464-57-2

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

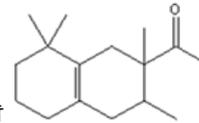
90%~95%

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

4-1911 化審法優先評価物質

GHS分類に寄与する成分

残りMyrceneの残留物



▲ 項目4 応急処置

吸入した場合 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11-有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護

医師に対する特別な注意事項

毒劇物の場合、解毒剤

項目5 火災時の措置

職場のあんぜんサイトから引用

消火剤 周辺の状況や火災の状況に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤 火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

火災時の措置に関する
特有の危険有害性 火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法 消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

吸入を避けること。皮膚、眼への接触を避けること。
項目7の取り扱いを確認すること。

環境に対する注意事項

環境(地下水、下水、土壌)に放出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

着火源を取り除く。十分な換気をする。
蒸気の吸引を避ける。
漏出物を砂や不活性物質で吸収して集める。
法令に従った容器で廃棄を行うこと。

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意 取扱い

技術的対策
(局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

裸火、熱に近づけないこと。
個人用の保護具を着用すること。
産業衛生を遵守すること。
十分な換気の場所でとりあつかうこと。
取り扱い場所での飲食喫煙は不可。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

厳しく監視すること。容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。
廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件

涼しく、換気よい場所で密閉保管すること。
容器を固定して、アース接地をおこなうこと。
耐電、耐爆設備のある場所で、換気と照明設備のある場所で保管すること。
静電気対策を講ずること。

近づけてはいけないもの

安全な保管保管包装材料 元の容器

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版)
ACGIH(2005年)

未設定
未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

保護具

呼吸用保護具	ガス蒸気の濃度が高い際、ガスマスクを着用する事。
手の保護具	手の保護具
眼の保護具	面の保護具
皮膚及び身体の保護具	防護服

特別な注意事項

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	無色～淡黄色
臭い	フルーツグリーン フローラル
融点・凝固点	-20°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	290.4°C
可燃性	
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	1.3-13.0 vol % 38.7-387g/m3
引火点	134°C
自然発火点	436°C; 1013 hPa
分解温度	データ無し
pH	水溶液は中性
動粘性率	32.61 mPa.s ;20°C
溶解度	水 2.68 mg/L; 20°C
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	5.65 log Pow
蒸気圧	データ無し
密度及び/又は相対密度	0.964 g/cm3 @ 20° C
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	
その他のデータ	

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	物質のみ、水との接触では危険反応はない。
化学的安定性	通常は安定。
危険有害反応可能性	強酸に強い発熱反応があり、爆発の危険性が上昇する。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	裸火、熱に近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	酸化剤、塩化物、強酸

危険有害な分解生成物
その他

燃えた場合、一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。
一酸化炭素を含む有毒ガス

★ 項目11 有害情報
急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50		>5000mg/kg		ラット		
経皮	LD50		>5000mg/kg		ラット		
吸引	LD50		データ無し		ラビット		

皮膚腐食性/皮膚刺激性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	時点	被検体	値の決定
刺激	区分2	In vitro			ラビット	

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
データ無し

呼吸器感作性又は皮膚感作性
局所リンパ節アッセイ 感作性がある。

生殖細胞変異原性
陰性

発がん性
基準には満たない。

生殖毒性
基準には満たない

特定標的臓器毒性、単回曝露
基準には満たない。

特定標的臓器毒性、反復曝露
基準には満たない

誤嚥有害性
基準には満たない

項目12 環境毒性情報
生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50		1.4 mg/L	72H	ブルーギル			
急性毒性 無脊椎動物	EC50		1.38 mg/L	48H	大ミジンコ			
魚に対する 慢性毒性	LC50		1.3 mg/L	96H	ブルーギル			
長期毒性 藻、	NOEC		>100 mg/L	42日	活性泥			
	EC50		>2.6 mg/L	72H	藻			
水生微生物 に対する毒	IC50							
	IC50							

残留性・分解性

方法	値	期間	値の決定
----	---	----	------

容易に生分解はしない。

生態蓄積性

基準	方法	値	期間	被検体	値の決定
	n-オクタノー ル/水分配係 数(Log Kow)	5.6-5.7			計測
	生体蓄積要	603L/kg			総重量

土壤中の移動性
吸収係数
Log koc @20°C

オゾン層への有害性

他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意
化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

項目14 輸送上の注意

国際規制
国連番号
品名(国連輸送名) 非該当 3082

国連分類
(輸送における危険有害性クラス) 9

容器等級
海洋汚染物質
(該当・非該当) III
非該当

MARPOL73/78附属書II及び
IBCコードによるばら積み輸送される液体物質
(該当・非該当) 該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

国内規制がある場合の規制情報

その他
応急措置指針番号 非該当

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	該当	2023年4月以降 政令番号1-492 整理番号748	第一種
安衛法	通知・表示対象物質	非該当	
毒劇法	非該当		
火薬類取締法	非該当		
高圧ガス保安法	該当なし		
消防法	消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)		
化審法	既存化学物質 優先評価物質 通し番号204 整理番号4-1911		
外為法	キャッチオール規制		

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報
引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取扱いを対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くて良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正 JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)